



CHAPTER 7

電話機の更新

デバイスプールの変更または追加、あるいは類似した一連の電話機のコーリングサーチスペースなど、電話機の設定値を更新するには、[電話の更新 (Update Phones)] オプションを使用します。次の2つの方法を使用して既存の電話機レコードを検索することができます。

- 「クエリーを使用した電話機の更新」 (P.7-1)
- 「カスタムファイルを使用した電話機の更新」 (P.7-2)

クエリーを使用した電話機の更新

更新する電話機を検索するためのクエリーを作成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の更新 (Update Phones)] > [クエリー (Query)] の順に選択します。

[電話の更新のクエリー (Update Phones Query)] ウィンドウが表示されます。



(注) クエリーを指定せずに [検索 (Find)] をクリックすると、すべての電話機を更新できます。「更新パラメータの選択」 (P.7-3) に進みます。

ステップ 2 最初の [検索対象: 電話、検索条件:(Find Phone where)] ドロップダウンリストボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)]
- [電話番号 (Directory Number)]
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [デバイスタイプ (Device Type)]
- [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]
- [LSC ステータス (LSC Status)]
- [認証文字列 (Authentication String)]
- [ロケーション (Location)]

- [電話ロード名 (Phone Load Name)]
- [デバイスプロトコル (Device Protocol)]
- [セキュリティプロファイル (Security Profile)]

2 番目の [検索対象 : 電話、検索条件 :(Find Phone where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべての電話機を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 4 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。

検索された電話機のリストが表示されます。

[電話の更新 (Update Phones)] ウィンドウに、選択した電話機の詳細が表示されます。

電話機を更新する手順を完了するには、「更新パラメータの選択」(P.7-3) に進みます。

カスタム ファイルを使用した電話機の更新

更新する電話機を検索するためのカスタム ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

始める前に

1. 更新が必要なデバイスを識別します。
2. 次のオプションのいずれかを別個の行に記載したテキスト ファイルを作成します。
 - デバイス名
 - 電話番号
 - 説明
3. テキスト ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードします。詳細については、「ファイルのアップロード」(P.2-3) を参照してください。

カスタム ファイルの電話機のリストを使用して電話機を更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の更新 (Update Phones)] > [カスタムファイル (Use Custom File)] の順に選択します。
- [電話の更新 (カスタム) (Update Phones Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [更新対象: 電話、検索条件:(Update Phones where)] ドロップダウン リスト ボックスで、作成したカスタム ファイルのタイプを次の条件から選択します。
- [デバイス名 (Device Name)]
 - [電話番号 (Directory Number)]
 - [説明 (Description)]
- ステップ 3** カスタム ファイルのリストで、この更新用のカスタム ファイルのファイル名を選択します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- クエリー結果が予想どおりではなかった場合は、カスタム ファイルの選択を変更することができます。



(注)

更新トランザクション用に `bat.xlt` として作成したトランザクション ファイルを挿入またはエクスポートしないでください。代わりに、更新が必要な電話機レコードの詳細情報が設定されたカスタム ファイルを作成する必要があります。更新トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム更新ファイルには、ヘッダーを指定する必要がありません。デバイス名、説明、電話番号の値を入力します。

電話機を更新する手順を完了するには、「更新パラメータの選択」(P.7-3) に進みます。

更新パラメータの選択

電話機を検索するためのクエリーまたはカスタム ファイルを定義した後、電話機を更新するためのパラメータを選択して値を定義する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [電話の更新のクエリー (Update Phones Query)] ウィンドウで、[次へ (Next)] をクリックします。選択したクエリーのタイプが、[電話の更新 (Update Phones)] に表示されます。クエリーのタイプを変更する場合は、[戻る (Back)] をクリックします。
- ステップ 2** 更新する前にユーザをログアウトするには、[更新前にユーザをログアウト (Logout Users Before Update)] チェックボックスをオンにします。フィールドを 1 つも選択しない場合、このオプションを使用してユーザを一括してログアウトすることもできます。
- ステップ 3** クエリーまたはカスタム ファイルで定義したレコードすべてに対して、更新する設定値を指定します。更新するパラメータは複数選択できます。パラメータの説明については、「電話機を更新する場合のフィールドの説明」(P.7-4) を参照してください。
- ステップ 4** 更新するフィールドの左側にある [更新 (update)] チェックボックスをオンにします。この操作により、フィールドの既存の値を上書きするように BAT に指示します。



(注)

BAT は、[更新 (update)] チェックボックスをオンにしたフィールドしか更新しないことに注意してください。

- ステップ 5** チェックマークが付いたパラメータの値フィールドに新しい値を入力するか、リストボックスから値を選択します。
- ステップ 6** [ログアウト/リセット/リスタート (Logout/Reset/Restart)] 領域で、次の選択項目のいずれかを選択します。
- [電話をリセット/リスタートしない/設定を適用 (Don't Reset/Restart phones/Apply Config)] : 後でデバイスをリセットまたは再起動します。
 - [電話のリセット (Reset phones)] : 電話機をリセット (電源をオン/オフ) します。
 - [電話のリスタート (Restart phones)] : 電源のオン/オフをせずに電話機をリセットします。
 - [設定の適用 (Apply Config)] : 最後のリセット以降に変更された設定のみをリセットします。
- ステップ 7** 必要な電話機パラメータを更新します。電話機を更新する場合のフィールドの説明については、表 7-1 を参照してください。
- ステップ 8** レコードを更新するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 9** [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。
- ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。
- ログファイルの詳細については、「BAT ログファイル」(P.83-3) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.7-21) を参照してください。

電話機を更新する場合のフィールドの説明

表 7-1 では、電話機を更新する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。一部のデバイスタイプには、すべての電話機設定値を必要としないものもあります。関連する手順については、「関連項目」(P.7-21) を参照してください。

一部のフィールドに示される値は、Cisco Unified Communications Manager から表示されます。これらの値は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して設定する必要があります。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
[説明 (Description)]	デバイスを識別しやすくする説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	このグループの電話機またはポートが属するデバイスプールを選択します。 デバイスプールは、デバイスに共通した特性のセット (たとえば、地域、日付/時刻グループ、Cisco Unified Communications Manager グループ、自動登録用のコーリングサーチスペースなど) を定義します。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	電話機に割り当てられる共通のデバイス設定を選択します。共通のデバイス設定には、特定のユーザに関連付けられているアトリビュート（サービスまたは機能）が含まれています。[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで共通のデバイス設定を行います。 共通デバイス設定の設定値を参照するには、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	適切な電話機ボタンテンプレートを選択します。電話機ボタンテンプレートは、電話機に表示するボタンの設定を決定し、各ボタンをどの機能（回線、スピードダイヤルなど）に使用するかを指定します。 Cisco Unified Communications Manager では、H.323 クライアントまたは CTI ポートに対してこのフィールドを利用できません。
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	このグループ内のすべての電話機に使用されるソフトキーテンプレートを選択します。
[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]	ドロップダウンリストボックスで、利用可能な共通の電話プロファイルのリストから、共通の電話プロファイルを選択します。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	このグループの電話機またはポートが属するコーリングサーチスペースを選択します。 コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	このグループの電話機またはポートが属するメディアリソースグループリスト (MRGL) を選択します。 MRGL は、優先順位が付けられたメディアリソースグループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL で指定された優先順位に従って、使用可能なメディアリソースの中から、必要なメディアリソースを選択できます。
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	このグループの電話機またはポートのユーザ保留オーディオソースを選択します。 ユーザ保留オーディオソースは、ユーザがコールを保留にしたときに音楽を再生します。
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	このグループの IP Phone または CTI ポートが利用するネットワーク保留オーディオソースを選択します。 ネットワーク保留オーディオソースは、システムがコールを保留にするととき（たとえば、ユーザがコールを転送したとき、またはコールパークに置いたとき）に音楽を再生します。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ロケーション (Location)]	このグループの電話機またはポートが属するロケーションを選択します。 ロケーションは、帯域幅制限付き接続を使用してアクセスされるリモートロケーションを指します。
[AARグループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。AAR グループが指定されている場合、Cisco Unified Communications Manager では、デバイス プールまたは回線に関連付けられているグループが使用されます。
[ユーザロケール (User Locale)]	このユーザに関連付ける国/地域と言語を選択します。 この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
[ネットワークロケール (Network Locale)]	このユーザに関連付けるネットワークロケールを選択します。 ネットワークロケールは、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときに使用するトーンと断続周期を提供します。
[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)]	[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] ドロップダウン リストボックスを使用して、割り込み機能のためのビルトイン会議ブリッジを有効または無効にします ([オン (On)]、[オフ (Off)]、または [デフォルト (Default)] を選択します)。 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。
[プライバシー (Privacy)]	プライバシーを必要とする電話機ごとに、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウン リストボックスで [オン (On)] を選択します。 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスのデバイスモビリティ機能のオンまたはオフを選択するか、[デフォルト (Default)] を選択してデフォルトのデバイス モビリティ モードを使用します。</p> <p>[現在のデバイスモビリティ設定の表示 (View Current Device Mobility Settings)] をクリックして、これらのデバイス モビリティ パラメータの現在の値を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)] • [ローミング用デバイスプール (Roaming Device Pool)] • [ロケーション (Location)] • [リージョン (Region)] • [ネットワークロケール (Network Locale)] • [AAR グループ (AAR Group)] • [AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)] • [デバイスコーリングサーチスペース (Device Calling Search Space)] • [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] • [SRST] <p>ヒント 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「デバイス モビリティ」の章を参照してください。</p>
[モビリティユーザ ID (Mobility User ID)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデュアルモードフォンが割り当てられているユーザのユーザ ID を選択します。</p> <p>(注) モビリティ ユーザ ID 設定は、デュアルモードフォンのモバイル コネクトおよびモバイル ボイス アクセスのために使用されます。</p> <p>(注) オーナーのユーザ ID とモビリティ ユーザ ID は異なることがあります。</p>
[オーナーのユーザ ID (Owner User ID)]	<p>プライマリ電話機ユーザのユーザ ID を入力します。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスの Cisco Unified Phone Designer 機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択して共通の電話プロファイルに設定されている電話機のパーソナライゼーションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [無効 (Disabled)] : Cisco Unified Phone アプリケーション スイッチ機能のいずれもアクティブになりません。 • [有効 (Enabled)] : この設定は、電話機のスクリーンに使用される個人設定された背景イメージ ファイルや一時的な表示用のプレビュー イメージを受け入れます。また、個人設定されたトーン ファイルを受け入れて、デフォルトの呼出音を個人用に設定します。 • [デフォルト (Default)] : 共通の電話プロファイルに設定されている電話機のパーソナライゼーションを使用します。
[サービスのプロビジョニング (Services Provisioning)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスにある次の値から、使用するサービスのプロビジョニングの設定値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [内部 (Internal)] • [外部 URL (External URLs)] • [両方 (Both)] • デフォルト : [内部 (Internal)] <p>このパラメータでは、電話機が設定ファイル (内部) からプロビジョニングされたサービスまたはサービス URL (外部の URL) から受信したサービスを使用するか、または両方を使用するかを制御します。[外部 URL (External URLs)] では、サードパーティのプロビジョニング サーバとの下位互換性を確保します。[両方 (Both)] オプションを使用すると、設定ファイルで指定されたサービスを登録できます。また、外部のプロビジョニング サーバからサービスを追加することもできます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p>
[電話ロード名 (Phone Load Name)]	<p>該当する場合は、カスタム電話機ロードを入力します。</p> <p>(注) このフィールドに入力される値は、選択されたモデルのデフォルト値を上書きし、Cisco Unified IP Phone 用のカスタム ソフトウェアを指定します。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ワンボタン割込み (Single Button Barge)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスのワンボタン割り込み/C 割り込み機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択して、サービス パラメータの設定値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : ワンボタン割り込み/C 割り込み機能を無効にします。ただし、通常の割り込みまたは C 割り込み機能は使用できません。 • [割込み (Barge)] : ワンボタン割り込み機能を有効にします。 • [C 割込 (cBarge)] : ワンボタン C 割り込み機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)] : サービス パラメータで設定されているワンボタン割り込み/C 割り込みの値を使用します。 <p>ヒント 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとブライバシー」を参照してください。</p>
[回線をまたいで参加 (Join Across Lines)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスの回線をまたいで参加の機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択して、サービス パラメータの設定値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : 回線をまたいで参加の機能を無効にします。 • [オン (On)] : 回線をまたいで参加の機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)] : この設定はサービス パラメータで設定されている回線をまたいで参加の設定値を使用します。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスを追加するかどうかを有効または無効にします。次の値のいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されません。 [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、デバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値を上書きします。 [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、デバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値を上書きします。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスでは、信頼できるリレー ポイントとして表示されている MTP またはトランスコーダを指定します。</p> <p>複数のリソースがエンドポイント (トランスコーダ、RSVP エージェントなど) に対して必要な場合、Cisco Unified Communications Manager では、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い場所に TRP を配置します。</p> <p>TRP と MTP の両方がエンドポイントに必要な場合、TRP は必要な MTP として使用されます。</p> <p>ヒント コールの動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』で TRP の挿入に関する要件の説明を参照してください。</p>
[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズすることができます。選択した [発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)] には、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれます。</p> <p>発呼側トランスフォーメーション CSS が存在するパーティションにパターンを割り当てる場合、デバイスは発呼側トランスフォーメーション パターンのアトリビュートを使用します。</p> <p>ヒント 詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定した位置情報を選択することもできます。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[機能管理ポリシー (Feature Control Policy)]	このグループの電話機の機能管理ポリシーを選択します。 機能管理ポリシーは、機能のアピランスや電話機に表示される関連ソフトキーを指定します。
[BLF オーディオアラート設定 (BLF Audible Alert Setting、電話がアイドルのとき)]	この必須フィールドでは、ドロップダウン リスト ボックスにある次の値から、使用する BLF オーディオ アラートの設定値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] • [オフ (Off)] • [デフォルト (Default)] コールがビジー ランプ フィールド (BLF) ボタンで監視されている回線のいずれかに着信した場合、このパラメータで現在アイドルの電話機にオーディオ アラートとビジュアル アラートを送信します。
[BLF オーディオアラート設定 (BLF Audible Alert Setting、電話がビジーのとき)]	この必須フィールドでは、コールがビジー ランプ フィールド (BLF) ボタンで監視されている回線のいずれかに着信した場合、このパラメータで現在使用中の電話機にオーディオ アラートとビジュアル アラートを送信します。 ドロップダウン リスト ボックスにある次の値から、使用する BLF オーディオ アラートの設定値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] • [オフ (Off)] • [デフォルト (Default)]
[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)]	ドロップダウン リスト ボックスにある次の値から、使用する [常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)] の設定値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] • [オフ (Off)] • [デフォルト (Default)]
[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)]	ドロップダウン リスト ボックスにある次の値から、使用する [ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)] の設定値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] • [オフ (Off)] • [デフォルト (Default)]
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーションCSSを使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	このデバイスに割り当てられているデバイス プールに設定された発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにすると、デバイスはデバイス設定ウィンドウで設定した発呼側トランスフォーメーション CSS を使用します。
[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]	システムで表示インジケータを無視する必要がある場合に、このチェックボックスをオンにします。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ビデオコールをオーディオとして再試行 (Retry Video Call as Audio)]	ビデオ コールをオーディオ コールとしてリトライするには、このチェックボックスをオンにします。
[CTIからデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	このチェックボックスをオンにすると、CTI がこのデバイスを制御、監視できます。 関連付けられた電話番号がシェアラインを指定している場合、少なくとも 1 つの関連付けられたデバイスが、デバイス タイプおよび CTI がサポートするプロトコルの組み合わせを指定している限り、チェックボックスをオンにする必要があります。
[ハントグループにログイン (Logged Into Hunt Group)]	このチェックボックスは、デフォルトではすべての電話機でオンになっています。これは電話機がハントリスト (グループ) にログインしていることを示します。電話機がハントリストに追加されていると、管理者はこのチェックボックスをオンまたはオフにしてユーザをログインさせたりログアウトさせたりすることができます。 ユーザは電話機のソフトキーを使用して、ハントリストに電話機をログインさせたりログアウトさせたりします。
[リモートデバイス (Remote Device)]	SCCP を介した接続で、リモート サイトへの接続時間が遅延する場合、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウにある [リモートデバイス (Remote Device)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager では、電話デバイスが登録されたときにバッファを割り当て、電話機に SCCP メッセージを組み込みます。 (注) この機能はリソースを消費するので、SCCP を実行する電話機でシグナリング遅延が発生する場合にのみ、このチェックボックスをオンにしてください。通常、ユーザにはこのオプションは不要です。
[保護されたデバイス (Protected Device)]	このチェックボックスをオンにして、電話機を「保護された」デバイスとして指定します。これにより、コールが暗号化されていて、かつ、両方の電話機が保護されたデバイスとして設定されている場合、電話機では、2 秒間のトーンを再生し、ユーザに通知することができます。コールに応答すると、トーンは発信と着信の両方で再生されます。このトーンが再生されるのは、両方の電話機が「保護」になっていて、暗号化メディアを介してコールが発信された場合だけです。 ヒント セキュアなトーン機能と設定要件の詳細については、『Cisco Unity Connection System Administration Guide』を参照してください。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)]	
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、信号パケット キャプチャに設定するモードを選択します。</p> <p>[なし (None)] : モードを指定しない場合は [なし (None)] を選択します。</p> <p>[Real-Time Mode] : リアルタイム信号パケット キャプチャに使用します。</p> <p>[バッチ処理モード (Batch Processing Mode)] : 信号パケット キャプチャのバッチ処理に使用します。</p>
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	<p>パケット キャプチャの時間を分単位で入力します。最大 300 分の継続時間を入力できます。デフォルトの継続時間は 60 分です。</p>
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>プレゼンス機能で使用する、SIP または SCCP を実行する電話機は、BLF スピードダイヤル ボタンとして電話機に設定されたプレゼンス エンティティに関するステータス (たとえば、電話番号) を要求するので、ウォッチャーとして機能します。</p> <p>電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを [プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウに示されるとおり表示するよう許可されているプレゼンスグループを選択します。</p> <p>ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[デバイスセキュリティプロファイル (Device Security Profile)]	<p>SCCP および SIP を実行する電話機の場合は、デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。</p> <p>すべての電話で、セキュリティ プロファイルを適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、非セキュアなプロファイルを選択します。</p> <p>ヒント プロファイルに設定されている CAPF 設定は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに表示される [CAPF の情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)] 設定に関連します。製造元でインストールされた証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) を管理するには、プロファイルと [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの両方で、CAPF 設定値を指定する必要があります。</p>
[SUBSCRIBE コーリング検索スペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能で使った場合、電話機からの登録要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法は、SUBSCRIBE コーリング検索スペースによって決まります。ドロップダウン リスト ボックスから、この目的に使用するコーリング検索スペースを選択します。</p> <p>ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[アウトバウンドコールロールオーバー (Outbound Call Rollover)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、アウトバウンド コール用に使用するロールオーバー オプションを選択します。</p> <p>[ロールオーバーなし (No Rollover)] : ロールオーバー機能をオフに切り替えるには、このオプションを選択します。このモードでは会議と転送は機能しません。</p> <p>[同一 DN 内のロールオーバー (Rollover Within Same DN)] : 同一 DN 内でロールオーバーを使用するには、このオプションを使用します。(異なる回線で) 同じ電話番号を使用すると、会議とコール転送を実行することができます。</p> <p>[任意の回線へのロールオーバー (Rollover to any line)] : 任意の回線にロールオーバーするには、このオプションを使用します。元のコールと異なる電話番号を使用すると、会議とコール転送を実行することができます。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイスの不在ポートを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[DTMF 受信が必要 (Require DTMF Reception)]	SIP および SCCP を実行する電話機の場合、このチェックボックスをオンにすると、この電話機で DTMF を受信する必要があります。
[外部データ位置情報 (External Data Locations Information、デフォルトを使用する場合は空白)]	
[情報 (Information)]	情報ボタンのヘルプ テキスト URL を入力します。
[ディレクトリ (Directory)]	ディレクトリ サーバの URL を入力します。
[メッセージ (Messages)]	ボイス メッセージのアクセス パイロット番号を入力します。
[サービス (Services)]	サービス メニューの URL を入力します。
[認証サーバ (Authentication Server)]	<p>電話機の Web サーバに対する要求を認証するときに、電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合は、認証を必要とする Cisco Unified IP Phone の拡張機能は動作しません。デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション ウィンドウにアクセスします。</p>
[プロキシサーバ (Proxy Server)]	<p>電話機の HTTP クライアントから非ローカル ホスト アドレスにアクセスするために、プロキシ HTTP 要求に使用されるホストおよびポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。</p> <p>電話機が、サービスの中で URL (たとえば、www.cisco.com) を受信するときに cisco.com ドメインで設定されていない場合、その電話機はプロキシサーバを使用してその URL にアクセスします。cisco.com ドメインで設定されている場合、電話機は、URL と同じドメインにいたので、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。</p> <p>デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドを空白のままにします。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[アイドル (Idle)]	[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)] フィールドで指定された時間、電話機が使用されなかったときに、Cisco Unified IP Phone 画面に表示される URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、画面にロゴを表示できます。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドをブランクのままにします。
[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)]	電話機に許容される非動作時間 (秒数) を入力します。非動作のままこの時間が経過すると、電話機は [アイドル (Idle)] フィールドに指定された URL を表示します。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドをブランクのままにします。
[セキュア認証 URL (Secure Authentication URL)]	<p>電話機の Web サーバに対する要求を検証するために、この電話機が使用するセキュア URL を入力します。</p> <p>(注) [セキュア認証 URL (Secure Authentication URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された [Cisco Unified CM のユーザ オプション (Cisco Unified CM User Options)] ウィンドウにアクセスします。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>
[セキュアディレクトリ URL (Secure Directory URL)]	<p>電話機がディレクトリ情報を取得する際の取得元となるサーバのセキュア URL を入力します。このパラメータは、ディレクトリ ボタンを押したときに、セキュリティ保護された Cisco Unified IP Phone で使用する URL を指定します。</p> <p>(注) [セキュアディレクトリ URL (Secure Directory URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[セキュアアイドルURL(Secure Idle URL)]	<p>[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)] フィールドの指定に従って電話機がアイドル状態になったときに、Cisco Unified IP Phone のディスプレイに表示する情報のセキュア URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD 上にロゴを表示できます。</p> <p>(注) [セキュアアイドルURL(Secure Idle URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>
[セキュア情報URL(Secure Information URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone がヘルプテキスト情報を検索できるサーバーケーションのセキュア URL を入力します。この情報は、ユーザが情報 ([i]) ボタンまたは疑問符 ([?]) ボタンを押すと表示されます。</p> <p>(注) [セキュア情報URL(Secure Information URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>
[セキュアメッセージURL(Secure Messages URL)]	<p>メッセージサーバのセキュア URL を入力します。ユーザがメッセージ ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone はこの URL に接続されます。</p> <p>(注) [セキュアメッセージURL(Secure Messages URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[セキュアサービス URL(Secure Services URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone サービスのセキュア URL を入力します。この設定では、ユーザがサービス ボタンを押したときに、セキュアな Cisco Unified IP Phone が接続される場所を指定します。</p> <p>(注) [セキュアサービス URL(Secure Services URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されません。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>
[ホットラインデバイス(Hotline Device)]	<p>T または F を入力します。ホットライン デバイスは、他のホットライン デバイスにだけ接続できます。この機能によって、オフフックになると自動的に 1 つの電話番号をダイヤルするように電話機を設定する PLAR 機能が拡張されます。ホットラインでは、PLAR を使用するデバイスに適用できる制限事項が追加されます。</p> <p>また、ホットラインを実装するには、補足サービス ソフトキーのないソフトキー テンプレートを作成して、ホットライン デバイスに適用する必要があります。</p>
[内線情報(Extension Information)]	
[エクステンションモビリティの有効化(Enable Extension Mobility)]	<p>エクステンション モビリティを使用可能にする場合に、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>この機能を無効にする場合は 0 (オフ) を、有効にする場合は 1 (オン) を選択します。</p> <p>ユーザは、エクステンション モビリティを使用して Cisco Unified IP Phone にログインおよびログアウトすることができます。エクステンション モビリティの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[IP サービス 1(IP Services1)]	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、設定済みのサービスを選択します。</p>
[IP サービス 2(IP Services2)]	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、設定済みのサービスを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、1 つのトランザクションで更新できる IP サービスは最大 2 つです。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[CAPF 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)] (これらのパラメータは、認証または暗号化のサポート機能のあるデバイスにのみ表示されます)	
[証明書の操作 (Certificate Operation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションの中から実行する証明書のオペレーションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [保留中の操作なし (No Pending Operation)] : このデバイスには保留中の証明書のオペレーション リストが存在しません。このオプションを選択すると、残りの CAPF フィールドは無効になります。 [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] : 証明書のオペレーションをインストールまたは更新します。 [削除 (Delete)] : 証明書のオペレーションを削除します。 [トラブルシューティング (Troubleshoot)] : 証明書のオペレーションのトラブルシューティングを行います。
[一意の認証文字列を各デバイスに生成 (Generate unique authentication string for each device)]	各デバイスに一意の認証文字列を生成する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[認証文字列 (Authentication String)]	[認証モード (Authentication Mode)] が [認証文字列 (Authentication String)] の場合は、認証文字列を入力します。または、システム生成の文字列を入手するために [文字列を生成 (Generate String)] をクリックします。
[操作の完了期限 (Operation Completes By)]	証明書の操作を完了する期限の日付を入力します。日付形式は、YYYY: MM: DD: HH です。デフォルトの完了日付は現在のシステム日付の 10 日後です。
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>(使用可能な場合) 優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : デバイスは MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。 [オフ (Off)] : デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信しません。 [オン (On)] : デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信します。 <p>(注) [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] という組み合わせではデバイスを設定しないでください。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンプション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : デバイスは MLPP プリエンプション設定値をデバイス プールから継承します。 [無効 (Disabled)] : デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理しません。 [強制 (Forceful)] : デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理します。 <p>(注) [MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)] で [MLPP表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] という組み合わせではデバイスを設定しないでください。</p>
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)] ("0000FF" など)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
[サイレント (Do Not Disturb)]	
[サイレント (Do Not Disturb)]	DND 機能を有効にする場合、このチェックボックスをオンにします。
[DND オプション (DND Option)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの DND オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [なし (None)] [呼出音オフ (Ringer Off)] [コール拒否 (Call Reject)] [共通の電話プロファイル設定を使用 (Use Common Phone Profile Setting)]
[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [なし (None)] [無効 (Disable)] [フラッシュのみ (Flash Only)] [ビーブ音のみ (Beep Only)]
[セキュアシェル情報 (Secure Shell Information)]	
[セキュアシェルユーザ (Secure Shell User)]	セキュリティ保護されたシェルのユーザのユーザ ID を入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) は、トラブルシューティングのためにセキュリティ保護されたシェルを使用します。詳細については、TAC にお問い合わせください。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[セキュアシェルパスワード (Secure Shell Password)]	セキュリティで保護されたシェルのユーザのパスワードを入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。詳細については、TAC にお問い合わせください。
[IP Phone サービスの割り当て (Assign IP Phone Services)]	
[このテンプレートからすべてのサービスを追加(Add all services from this template)]	ドロップダウン リスト ボックスから、電話の更新に使用するサービスのリストが入ったテンプレートを選択します。 [IP Phone サービスの編集 (Edit IP Phone Services)] リンクをクリックすると、テンプレート上の登録済み Cisco IP Phone サービスを更新できます。
[重複の削除 (Remove Duplicate)]	重複した IP Phone サービスを削除するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、重複したサービス登録が電話機とユーザ デバイス プロファイルから削除されます。IP システムが、IP サービス名に基づいてサービスを削除します。
[プロダクト固有の情報 (Product Specific Information)]	
[Device Security Mode]	ドロップダウン リスト ボックスから、デバイスに設定するモードを選択します。 [Use System Default] : 電話機はエンタープライズ パラメータのデバイス セキュリティ モードに指定された値を使用します。 [Non-secure] : 電話機にセキュリティ機能はありません。TCP 接続で Cisco Unified Communications Manager が利用できます。 [Authenticated] : Cisco Unified Communications Manager は電話機の整合性と認証を提供します。NULL/SHA を使用する TLS 接続を開始します。 [Encrypted] : Cisco Unified Communications Manager は電話機の整合性、認証、および暗号化を提供します。AES128/SHA を使用する TLS 接続を開始します。 このフィールドが適用されるのは、電話機モデルが認証または暗号化をサポートしている場合だけです。
[Remove Duplicate IP Services from all Phones and Device Profiles]	重複した IP Phone サービスを削除するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、重複したサービス登録が電話機とユーザ デバイス プロファイルから削除されます。IP システムが、IP サービス名に基づいてサービスを削除します。
[Disable Speakerphone]	スピーカフォンを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[Disable Speakerphone and Headset]	スピーカフォンとヘッドセットを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[Forwarding Delay]	このフィールドを使用して自動転送遅延を有効または無効にします。コールの自動転送前にポートを数秒間遅延させる場合、有効にします。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[PC Port]	このフィールドを使用して内部スイッチを持つ電話機の PC ポートを有効または無効にします。ユーザは、電話機背面の「10/100 PC」というラベルの付いたポートを使用して、PC またはワークステーションを電話機に接続できます。
[Setting Access]	このフィールドを使用してユーザが電話機設定値にアクセスするかどうかを選択します。[Enabled] および [Disable] を選択できます。
[Gratuitous ARP]	Gratuitous ARP を制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。
[PC Voice VLAN Access]	PC ボイス VLAN へのアクセスを制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。
[Video Capabilities]	ビデオ機能アクセスを制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。
[Auto Line Select]	電話機での自動回線選択を制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。
[Web Access]	電話機での Web アクセスを制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。



(注)

手順を完了するには、「更新パラメータの選択」(P.7-3)に進みます。

関連項目

- 「クエリーを使用した電話機の更新」(P.7-1)
- 「カスタム ファイルを使用した電話機の更新」(P.7-2)
- 「更新パラメータの選択」(P.7-3)
- 「電話機を更新する場合のフィールドの説明」(P.7-4)

